

研究分野のキーワード：教育工学，情報教育，教育の情報化，教材開発，教員養成

研究紹介

私は「情報」と「教育」をテーマに、多方面から研究をしています。皆さんは、「情報」や「教育」というキーワードを聞くと、どんなイメージを思い浮かべますか？

電子黒板やコンピュータなどの情報機器（ICT）の使い方を学ぶ？

それらをどうやって授業で使うかを考える？

もしくは、教科「情報」や情報モラルのより良い指導方法を開発する？

それとも、授業や自己学習で使う教材を開発する？

とても大ざっぱに言えば、そうなのですが、実際は、もう少し限定したり、他の分野で明らかになっている知見を活用したりしながら、研究を進めます。

たとえば、一つ例を挙げます。情報モラルをテーマとした、Web 版の教材を作ろうとします。一般的に情報モラル教材と言えば、「〇〇してはいけないよ、△△しなければいけないよ」という形式になります。つまり、相手を説得したり、納得させたりしなければならぬわけです。そういうときにどんな教材を作ると効果的なのでしょう。

話が少しずれますが、日常生活においてもこういう場面に出くわします。私には4歳の娘がいるのですが、うがいや手洗いをさせるのに毎日大声をあげています。する、しないの話だけなら明確なのでわかりやすいのですが、手や口を濡らしただけのやり方では意味がないということを理解させるのに苦労していました。そんな時、ある幼児教育のTV番組の中で同じようなストーリーのアニメがありました。その主人公は外から帰ってきて手洗いとうがいをしますが、おざなりにやったのをお母さんに注意され、「僕はちゃんと手も口も洗ったのに！」とむくれて外に飛び出していくことからストーリーが展開していく内容でした。これを娘に見せたとき、娘は黙って見ていましたが、見終わった後、とても決まりが悪そうでした。いつも私に注意されている自分とその主人公が同じだということがわかったのだと思います。

実は、社会心理学の分野では人を説得する手段について様々な研究がなされています。その一つとして、説得される様子を第3者として漏れ聞く方が、直接説得された場合より、説得方向に態度を変容しやすいという結果がでています。上の状況もこの結果とよく似ていますね。

では、このことをWeb版の情報モラル教材に適応してみようと考えます。そうするとどうなるのでしょうか？Web教材でも同じことが起こるのでしょうか？登場人物のキャラクターの好みは結果に影響するのでしょうか？・・・いろいろと疑問がわいてきます。

このように、私は他の分野で得られた知見を活用し、教材や指導法を開発・提案し、実践や実験を通して、それらの提案に効果があるのかどうかを明らかにする研究をしています。